

平成 2 8 年 9 月 日

各部局長 殿

教育担当理事 小 林 傳 司

卓越大学院（仮称）構想の第 1 次エントリーについて

本学における「大学改革の方向性」等については、9 月 2 1 日（水）開催の部局長会議において総長及び関係理事から報告があったところです。

このうち、本学における卓越大学院（仮称）の構想については、室横断的な検討体制として「卓越大学院タスクフォース」を設置し、同タスクフォースにおいて検討を加速させていくこととなりました。

については、貴部局において、卓越大学院（仮称）についての設置構想がある場合は、別紙様式により作成のうえ、1 0 月 2 0 日（木）までに教育・学生支援部教育企画課へ提出願います。

< 本件問合せ先 >

教育・学生支援部教育企画課教育企画係

佐々木・榎原（内線 9618）

E-mail:gakusei-kikaku-kikaku@office.osaka-u.ac.jp

卓越大学院の構想について（学内エントリーシート）

【部局名】：

【記入者】：

構 想 名 【必須】	※構想名を記入 ー※サブタイトルがある場合に記入ー
構想責任者 （プログラム代表者、プログラム担当者） 【必須】	※構想責任者 1 名とプログラム代表者の所属・氏名・連絡先を記入 【構想責任者（1 名）】 【プログラム代表者（1 名）】 【プログラム担当者（5 名以内）】
想定される 実施主体 【必須】	※取組を主体となって実施する組織（学部、研究科、研究所、センター等）の名称を記入し、 連携相手先の組織名称を記入 【幹事部局】 【連携部局】 【学外連携機関】 ※学外連携機関の選定理由、相手先と交渉を進めている場合は、交渉の状況も含めて記入
対象領域 【必須】	※主たる対象領域を 1 つ選んでください。また副となる対象領域も 1 つ選んでください。 ① 我が国が国際的な優位性と卓越性を示している研究分野 ② 社会において多様な価値・システムを創造するような、文理融合領域、学際領域、新領域 ③ 将来の産業構造の中核となり、経済発展に寄与するような新産業の創出に資する領域 ④ 世界の学術の多様性を確保するという観点から我が国の貢献が期待される領域
養成する人材像 【必須】	※養成する人材像を記入（※高度な『知のプロフェッショナル』を目的とし、具体的に記入）
構 想 の 概 要 【必須】	※構想の概要について、以下の 1～4 の観点で簡潔に記入 1. 教育力の観点から実施する取組（検討中のものも含めて記載） 2. 優秀な大学院生・教員等を結集する観点から実施する取組 （検討中のものも含めて記載） ※学生に対する経済的支援の充実のための方策は必ず記入 3. 人材育成の場として研究の観点から実施する取組 （検討中のものも含めて記載） 4. その他の観点から実施する取組（検討中のものも含めて記載）
計 画 期 間 【必須】	平成 年度～平成 年度（ 年）

(1) 国内（本学）の現状、構想（養成する人材）の必要性【必須】

※国内又は本学の現状を踏まえて、養成する人材の必要性（入口、出口を明示）について、具体的かつ簡潔に記入

(2) 本学の優位性、卓越性【必須】

※本学がプログラムを提供することの優位性、研究面での卓越性（プログラム担当者の役割と主な研究業績を含めて記入）を記入

(3) 期待される社会的な効果【必須】

※社会的ニーズ（産業界、学生、地域等）、社会的・学術的な波及効果、大学の教育研究にもたらす意義等を記入

(4) 全体計画（10年間の計画）【必須】

※構想期間（2027年まで）における、年次計画及び全体計画を記入

※第3期中期目標期間に実施する取組内容については具体的かつわかりやすく簡潔に記入

- ・平成30年度（2018）：
- ・平成31年度（2019）：
- ・平成32年度（2020）：
- ・平成33年度（2021）：
- ・平成34年度（2022）：
- ・平成35年度以降（2023～2027年まで）：

(5) 補助金終了後の定着化に向けた計画（基本的な方向性）【必須】

※補助金終了後の定着化のための基本的な方向性を記入

(6) 財政規模（概算額）【必須】

※「卓越大学院構想」の実施に必要な所要額（概算額）を記入（上記（4）に対応させて記入）

※学生に対する経済的支援に必要な所要額（概算額）についても含める。

※博士教育課程リーディングプログラムの予算規模を上限とする。

(7) 構想の実現に必要な学内改革と国への規制緩和の要望【任意】

※必要な改革（学内資源の再配分、人事・給与システム改革、ガバナンス改革等）を具体的かつ簡潔に記入

※国の規制緩和が必要な事項を具体的かつ簡潔に記載

(8) 参考にした海外大学の構想（ベンチマーク大学の設定）【任意】

※参考にした海外大学の構想（教育プログラム）を具体的かつ簡潔に記入

(9) その他【任意】

【備考】

(※枚数：5枚程度)

<その他の提出資料>

※1. 構想概要を説明するポンチ絵（A4版で1～2枚まで）【必須】

※2. 年次計画及び達成時期を含む全体計画がわかる工程表【必須】

【提出期限：10月20日（木）】

平成27年度中間評価

【S】

計画を超えた取り組みである

情報科学・生体科学・認知・脳科学の融合領域で分野を超えてあらゆる融合の可能性を切り開く双方向性のある博士人材の育成、データビリティサイエンスを取り込んだイノベーション形成（OUビジョンの具現化）

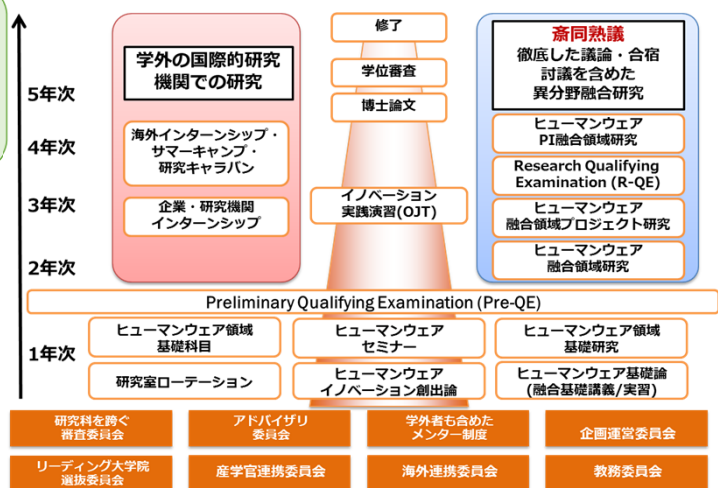
リーディング大学院博士課程プログラム



ヒューマンウェアイノベーション博士課程プログラム (HWIP)

オープンイノベーション・クリエータ卓越大学院

世界最高水準の教育力と研究力を備え人材交流・共同研究のハブとなるイノベーション創出・人材育成拠点



リーディング大学院博士課程プログラムで
培われた体系的・組織的な大学院教育の革新

ビッグデータ
データビリティ
サイエンスによる革新
による社会の変革

複雑化する
情報システムの問題

生命機能研究科

基礎工学研究科

産学官一体的運営による
大学院教育改革の実現

連携企業

日立製作所
NTT
NEC
オムロン
東芝
堀場製作所
マイクロソフト
パナソニック

キャリアパス形成・イノベーション
創出・社会人学びなおしの促進
による社会構造の変革

理工系と人文・社会系の
教育のクロストーク

世界トップの研究実践と国際連携
による世界的研究拠点形成

海外類似研究機関

カリフォルニア大学
ワシントン大学
PRIUS 大阪大学
FrontierLab
OUSSEP

ビーレフェルト大学
イタリア工科大学

北京大学
上海交通大学
南洋工科大学
シドニー大学

海外からの優れた留学生の受け入れ

情報科学研究科

バイオシステム

医療

情報ネットワーク

認知

ロボティクス

認知脳

ソースコード

環境問題

福祉

社会

世界トップレベルの
研究所との協同

国際電気
通信基礎
技術研究所
ATR

情報通信
研究機構
CiNet

理化学
研究所
QBiC